

高知市地域福祉活動推進計画【第2期(2019～2024年度)】
計画の推進に向けた取組の進捗状況(高知市社会福祉協議会)

		事業内容	取組状況(令和4年3月末時点)	進捗評価(令和4年3月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価 今後の課題等	
「ほおっちょけん」のひとづくり	ふくしの心を育む	関心を高めるきっかけづくり	○ソーシャルメディアを活用した広報 ①ホームページ 随時情報を更新できるよう業者との打ち合わせを行い、内容の充実を図った。 訪問ユーザー数(実人数)31,293人(内、新規ユーザー31,016人)総ページビュー数108,433回 ②フェイスブック フォロワー数671人、掲載回数58回 ③Instagram 名士チャリティ色紙展示即売会、さずな農園で活用 合計フォロワー数634人、掲載回数…274回 ④ツイッター 名士チャリティ色紙展示即売会で活用 フォロワー数584人、掲載回数243回 (新規)子育て世代を対象としたイベントの開催 既存の社会資源(高知県立交通安全こどもセンター)を活用するとともに、障害のある方が特技を活かして講師役を務めるなど、広報活動だけに留まらない取組を展開	【情報発信】 ・ホームページ運営 (アクセス数) 165,000/年 ※リニューアルにより実績値のアクセス数カウントできず、ページ閲覧総数が参照値となる ・フェイスブック運営 (記事掲載数) 50回/年	B	ホームページの内容の見直しを行い、市民へより情報の伝わりやすい形を検討することで、アクセス数の増加を図る。 市民に対して更に情報発信をしていくため、ユーザー数がより多い新たな広報媒体(公式ライン)を導入し、広報の強化を図る。 既存のSNSについても発信したいターゲットを意識した情報発信に努めることでフォロワー数の増加を図る。
		「ほおっちょけん」の住民意識づくり	○高知市内の各圏域において、地域共生社会の実現に向けて第2期地域福祉活動推進計画の周知を行った。 ①計画の説明 89回(延べ524人) ②地域福祉コーディネーターのチラシ配布 331回(延べ人数2,578人) ③ボランティアセンターの説明 51回(延べ人数274人) ○「ほおっちょけん」キャラクター広報物 ①「ほおっちょけん」焼印付どら焼き(菓舗浜幸協力)を含んだ「オフィスDEおやつ」を企業に対し249セット販売 ②名士チャリティ色紙展示即売会事業にて、無償で企業の協力を得る ・トートバッグ専門ブランド「ROOTOTE」がほおっちょけんトートバッグを製作、SNSにて発信及び販売 ③高知市社会福祉大会表彰者を対象にほおっちょけん記念シール貼付記念品102個を贈呈 ④市民等より地域福祉活動への寄付によりほおっちょけんバッジを42個配布 ⑤高知市内の小中学校等の児童生徒等への啓発のため、ほおっちょけんシールを4,426枚配布 (新規)ほおっちょけんの気持ちを伝える絆創膏を作成、ほおっちょけん学習の際に298名配布 (新規)企業版ほおっちょけん学習を実施した企業に認定ステッカーを6社配布(令和2年度実績分含む) ⑥ほおっちょけんボールペンを企業版ほおっちょけん学習等で配布45個	・ほおっちょけんシール 5,000枚/年 ・ほおっちょけんバッジ 配布数1,000個	B	ほおっちょけんLINEスタンプ(高知県共同募金会地域力増進枠助成)を活用し既に繋がっている市民により市社協への愛着を持ってもらうとともに、ほおっちょけんガチャポン(高知県共同募金会地域力増進枠助成)を活用し、子育て世代など、現在つながりの薄い世代への啓発する。 また年々周知度も高まり、盛り上がりを見せている名士チャリティ色紙展を活かした「ほおっちょけん」の啓発を検討していく。 引き続き、各地域に地域福祉コーディネーターが出向き、地域で活動する各種団体や組織の代表者、ボランティア等に働きかけ、各種周知(第2期地域福祉活動推進計画、地域福祉コーディネーター、ボランティアセンター、ほおっちょけん相談窓口等)を行う。
		「ほおっちょけん学習(福祉教育)の拡充	○ほおっちょけん学習(福祉教育)の推進 ①ほおっちょけん学習の開催 開催数 保育園・幼稚園 1ヶ所(令和2年度実績3ヶ所) 小学校(放課後児童クラブを含む) 6校(令和2年度実績3校、1ヶ所) 高等学校・専門学校での福祉教育の実施 (高知西高校、春野高校、平成福祉専門学校、高知福祉専門学校にて地域福祉の授業を実施) 民間企業 4社(令和2年度実績3社) ほおっちょけん学習を受講した人 706名(令和2年度実績326名) 学習に参画した地域住民 38名(令和2年度実績39名) ②福祉教育の拡充に向けた取り組み ほおっちょけん学習サポーターの養成 登録者 25名(総数74名)(令和2年度実績 49名 総数49名) (新規)ほおっちょけん学習のPR動画作成(国際中学校の学生が作製協力) (新規)高知西高校「グローバル探求Ⅱ」(2年生対象)で福祉をテーマに探求する学生に地域福祉コーディネーターがスーパーバイザーとして協力 (新規)福祉教育推進マニュアル「ほおっちょけん学習のススメ」の作成(令和4年1月) ③ふれあい体験学習 受講生4,279人	【「ほおっちょけん」の展開】 ・ほおっちょけん学習 (福祉教育) 保育園等 20園 小・中学校 18校 地域・民間企業 40箇所 ・ほおっちょけん学習 サポーター (新規) 40名養成 ・ふれあい体験学習 【市委託業務】 5,000名/年	B	福祉教育は児童・生徒だけを対象としたものではなく、むしろ生涯学習の視点でも取組んでいく必要がある。それは単に福祉教育の機会を増やすだけではなく、ほおっちょけんネットワーク会議等の活動を通じて、学び合い、かかわり合う中から、地域のニーズに触れ、関心を高めるといった福祉教育的機能を意識した場づくりを進める。 また、ほおっちょけん学習サポーター養成講座の開催を通じて、学習を主体的に推進する人材の養成を進めるとともに、講座の開催から実際の活動までを一体的にコーディネートしていくことで、身近な地域でのボランティア活動や高齢者の社会参加にもつなげる。 さらに、社会福祉法人の責務として位置づけられた「地域における公益的な取組」の中には福祉教育が位置づけられており、高知市社会福祉法人連絡協議会と連携を図りながら取組を進める。 ほおっちょけん学習の機会を増やし地域展開を進めていくことを目的に作成した「福祉教育推進マニュアル」を活用し、人材の育成や学習実施場所の新規開拓に向けた働きかけを強化する必要がある。

	事業内容	取組状況(令和4年3月末時点)	進捗評価(令和4年3月末時点)		
			2024年度(目標値)	評価	
「ほおっちょけん」のひとづくり	活動につながるきっかけづくり	<p>○既存ボランティアへの情報発信 既存ボランティア登録者へ2か月に1回、ボランティア活動の情報紙を発送する。その情報によりボランティア活動へつながった事例10件。ボランティア情報とともに、コロナ禍でも感染に注意しながら地域活動を絶やさずにつながり続けることに繋がるよう、地域活動の紹介を中心とした情報発信を行う。</p> <p>○ボランティア登録者の増加への取り組み こうち笑顔マイレージの受入施設は、緊急事態宣言解除後も外部からの立ち入りを制限する施設が多く、ボランティアを受け入れる環境になかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうち笑顔マイレージボランティア 新規登録者3名(総数 229名) ・気くばりさん 新規登録者15名(総数568名) ・福祉委員 新規登録者3名(総数 139名) 導入13地区 ・生活支援ボランティア 新規登録者27名(総数66名) ・ほおっちょけん学習サポーター新規登録者25名(総数 74名)再掲 	<p>【ボランティア登録者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうち笑顔マイレージ 800名 稼働率80% ・気くばりさん 900名 稼働率80% ・福祉委員 導入25地区 500名 ・ボランティアに関する相談 件数100件/年 	C	<p>新型コロナウイルス感染症対策を行いながら活動を続けているが、コロナ前にできていたことが十分に実践できる環境ではない。特にこども食堂や地域食堂等の飲食を伴う活動、施設でのレクリエーションを実施していた団体の活動など、縮小せざる負えない状況にあり、ボランティアの活躍できるための環境が整わない。</p> <p>ほおっちょけん相談窓口の全市展開に向けて、生活支援ボランティアの養成を計画的に進めていくとともに、困りごととのマッチングを実施していく必要がある。</p>
	ふくしの担い手を育む	担い手がいきいきと活躍できる環境づくり	<p>○ボランティア団体への支援 ボランティア保険の案内受付</p> <p>○ボランティアのニーズ受付 関係機関からの相談件数 44件</p> <p>○ボランティアのマッチング 寄せられた相談に対して気くばりさんやマイレージボランティア等をマッチング 81件</p> <p>○ボランティアの研修 (新規)旭地区、三里地区、一宮地区、秦地区にて生活支援ボランティア養成講座を開催 江ノ口地区、三里地区、一宮地区にて既存の生活支援ボランティアを対象に研修を実施 (新規)潮江地区、下知地区、介良地区にてほおっちょけん学習サポーター養成講座を開催 (新規)三里中学校、国際中学校にてボランティア研修を実施 (新規)リハビリテーション専門学校にて、ボランティアをテーマとするカリキュラムにCSWが講師として協力</p> <p>○市の実施する人材育成講座等での啓発 (新規)高知市老人クラブ連合会の会報にて、こうち笑顔マイレージを周知(8,000部発行)</p> <p>○大学生等の若い世代との協働 地域福祉活動や街頭募金活動等を大学生や専門学生に情報提供し、ボランティアマッチングを実施 (新規)(三里中)研修を受けた学生が、生活支援ボランティアと共に独居高齢者の資源ごみ出しを支援 (新規)(国際中)研修を受けた学生が、動画作製・共同募金の呼びかけ音源作製等のボランティアを実施</p> <p>○高齢者の社会参加の促進 こうち笑顔マイレージボランティアの登録者が登録施設でのボランティアにとどまらず、地域での困りごとへのちょっとしたボランティアへつながるよう情報提供を行った。 生活に関するちょっとした困りごと等をお手伝いする生活支援ボランティア27名の養成。(再掲)</p> <p>○生活支援ボランティアの活動支援 「ほおっちょけん相談窓口」に寄せられる相談の解決を担う人材を養成する仕組みづくりとして展開 生活支援ボランティアの活動を通じて、地域において困りごとを抱えた人や、気になる世帯の情報を得られることにより、地域における支え合いの意識の醸成にもつながっている <活動例>ゴミの分別手伝い、簡単な掃除、新しい敷物を敷く作業、電球交換 等</p>	<p>【ボランティア登録者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうち笑顔マイレージ 800名 稼働率80% ・気くばりさん 900名 稼働率80% ・福祉委員 導入25地区 500名 ・ボランティアに関する相談 件数100件/年 	B
ふくしの担い手を支える	担い手の活動を支える	<p>○ボランティアへのフォローアップ体制 既存の登録者のフォローアップ研修を開催予定していたが感染流行により中止</p> <p>○非対面型ボランティア活動の試行実施</p>	<p>【既存ボランティアのフォローアップ体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア連絡会2回/年 ・フォローアップ研修2回/年 	C	

	事業内容	取組状況(令和4年3月末時点)	進捗評価(令和4年3月末時点)																	
			2024年度(目標値)	評価 今後の課題等																
「ほおっちょけん」のまちづくり	その人らしい暮らしを支える	<p>○就労準備支援事業拡充</p> <p>① 利用者数:21名(内,令和2年度からの継続利用者10名)</p> <p>② 協力事業所の開拓(就労に不安を抱える方の受け皿の確保) 協力事業所登録数 ⇒ 28ヵ所(新規開拓8ヵ所) 協力事業所での職場体験活動や社会参加活動 ⇒ 7ヵ所6名 内、1ヵ所で1名の就労が決定。2ヵ所で2名が継続して社会参加活動に参加。</p> <p>③ 参加者に応じたプログラムの実施(日常生活や社会生活の自立と就労に向けた準備) 就労準備プログラム・・・224回 就労訓練プログラム・・・130回 社協内軽作業プログラム・・・166回 職場体験プログラム・・・5ヵ所(4名)</p> <p>(新規) 社会参加プログラム(社会的な居場所につながるサポート) 利用者数・・・7名 プログラム実施・・・284回 地域における参加支援マッチング・・・2件 (生活圏内の高齢者施設ボランティア活動・医療機関清掃ボランティア)</p> <p>(新規) ④ ほおっちょけんカレンダーの作成と配布 プログラム内でカレンダーづくりを実施。「ほおっちょけん」をモチーフに様々な種類を作成、各所配布。 事業周知やほおっちょけんの認知度向上、利用者のモチベーション向上にもつながった。 配布冊数:約270冊 配布先:ふれあいセンター15ヵ所、コミュニティセンター2ヵ所、庁内各課</p>	累計利用者数:40名 協力事業所へのマッチング 件数:6件	B	職場体験による雇用の可能性の拡大と社会とつながる機会の増加を目指し,地元企業に対しての広報活動の充実と事業周知に努めた。一方で,8050問題に直面している地域包括支援センターなど関係機関への事業周知や連携によるアウトリーチを更に拡大する必要がある。															
		<p>○新型コロナウイルス感染症への対応</p> <p>・生活福祉資金特例貸付の実施 新型コロナウイルスの影響で減収した方に対する生活資金貸付の受付業務を人員体制強化し行った。 申請件数合計 貸付金額合計</p> <table border="1"> <tr> <td>○緊急小口資金特例貸付</td> <td>6,773件</td> <td>1,188,790,000円</td> </tr> <tr> <td>○総合支援資金特例貸付</td> <td>5,059件</td> <td>2,650,640,000円</td> </tr> <tr> <td>○総合支援資金延長貸付</td> <td>2,990件</td> <td>1,568,050,000円</td> </tr> <tr> <td>○再貸付</td> <td>3,668件</td> <td>1,942,370,000円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>18,490件</td> <td>7,349,850,000円</td> </tr> </table> <p>・住居確保給付金の支給 新型コロナウイルスの影響で対象拡大した家賃給付の受付業務を継続して行った。</p> <p>○対応件数・・・2,541件 ○決定件数・・・1,173件 (うち、新規申請650件、延長申請199件、再延長90件、再々延長5件、再申請229件)</p>	○緊急小口資金特例貸付	6,773件	1,188,790,000円	○総合支援資金特例貸付	5,059件	2,650,640,000円	○総合支援資金延長貸付	2,990件	1,568,050,000円	○再貸付	3,668件	1,942,370,000円	合計	18,490件	7,349,850,000円		B	令和4年6月から緊急小口特例貸付及び総合支援資金特例貸付(初回)の償還免除申請を受付、令和5年1月より償還開始する。 生活に困窮している世帯については生活支援相談センターと連携して支援していく。
		○緊急小口資金特例貸付	6,773件	1,188,790,000円																
○総合支援資金特例貸付	5,059件	2,650,640,000円																		
○総合支援資金延長貸付	2,990件	1,568,050,000円																		
○再貸付	3,668件	1,942,370,000円																		
合計	18,490件	7,349,850,000円																		
<p>○中核機関の機能と役割、成年後見制度利用促進に関する意見を行政と共有し、円滑な受託に向けて協議を行った。</p> <p>○第6回市民後見人養成講座を広域で開催し、7名が修了した。</p> <p>○市民後見人材バンク登録者が1名追加となり、実登録者数は21名となった。また、市民後見人受任案件が1件増え、4件を市民後見人が受任中である。</p> <p>○これからあんしんサポート事業は、新規契約2件,終了1件となり,はじめて死後事務を実施。より良い支援に向けて検討を行った。</p> <p>○日常生活自立支援事業は、課題解決が困難な事例や判断能力が低下した事例については、成年後見制度へのつなぎを行った。</p>		B	・福祉サービス利用支援部門職員の育成 ・市民後見人受任案件増加に向けて家裁との調整 ・これからあんしんサポート事業の見直し ・成年後見制度利用促進に向けた行政・関係機関との協力体制の構築																	
在宅福祉サービス	○在宅福祉サービスの職員が個別支援の利用者周辺地域の困りごとに気付き、相談窓口等につなげる仕組み「地域はっと」の取り組みを実施している。		C	現在は「地域はっと」の実績は少ないが,CSWが地域の課題として受けとめ解決に向けて調整した。「地域はっと」に取組む意義を職員等への周知を行い継続して実施する。																

		事業内容	取組状況(令和4年3月末時点)	進捗評価(令和4年3月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価 今後の課題等	
「ほおつちよけん」のまちづくり	その人らしい暮らしを支える	地域福祉活動推進	<p>○各種会議への参画 各専門機関等との定期的な意見交換や日頃からの協議等を通して、役割分担や今後のかかわりについて共通理解を深めている。特に、地域づくりをコーディネートする機能を持つ地域包括支援センターとは、ほおつちよけんネットワーク会議(第2層協議体)の運営を協働実践するなど連携・協働が深まっている。また、個別支援における課題を住民に学んでもらう機会づくり等を通じて、地域において困りごとを抱えた人や、気になる世帯の情報を得られることにより、地域における支え合いの意識の醸成にもつながっている。</p> <p>①地域包括支援センターブロック会 43回(令和2年度実績 21回) ②地域ケア会議 44回(令和2年度実績 25回) ③地域包括支援センターとの意見交換 77回 ④障害委託センターとの意見交換 28回(令和2年度実績 7回) ⑤スクールソーシャルワーカー(SSW)との意見交換 8回(令和2年度実績 7回) ⑥認知症サポーター養成講座での協働 4回(令和2年度実績 14回) ⑦個別支援分野との連携 219件(令和2年度実績 141件)</p> <p>○行政、専門機関、社協の協働による地域支援強化についての検討</p> <p>①子育て世代包括支援センターとの協働 ・「多胎児サークル」のイベントに向けて、活動者やボランティアの調整を行った</p>		B	<p>専門機関や高知市の各所管課と協働する機会も多いため、意見交換や日頃からの協議等を通して、役割分担や今後のかかわり等について引き続き共通理解を深める。</p>
	ひとつが つながる 場づくり	気軽に集まることのできる「集いの場」づくり	<p>○「集いの場」づくり 立上げ支援 ①子育てサロン 0ヶ所(総数 18ヶ所) ②サロン 2ヶ所(総数 86ヶ所) ・新しくできた公民館での多世代が交流できるサロンや何でも相談ができるサロンが開始 ③認知症カフェ 3ヶ所(総数27ヶ所) ④子ども食堂 2ヶ所(総数35ヶ所)</p> <p>「集いの場づくり」の取り組みに関しては、新型コロナウイルス感染症の流行により、会議や集いの場が自粛を余儀なくされており、活動の継続が難しくなっている。また、新規立ち上げについても例年に比べて相談件数が減少しており、活動の場が縮小している。</p> <p>一方で、鴨田地区のスクールソーシャルワーカー(SSW)や子育て包括支援センターの保健師と連携し、支援が必要な家庭への食糧支援の取り組みが継続された。 また秦地区では子ども食堂が開始されるなど、コロナ禍でも工夫した活動が実施されている。</p>	<p>【ひとつが つながる 場づくり】</p> <p>・集いの場 ①子育てサロン 41ヶ所 ②サロン 120ヶ所 ③認知症カフェ 41ヶ所 ④子ども食堂 41ヶ所</p>	C	<p>新型コロナウイルス感染症の流行により、会議や集いの場の運営においても自粛を余儀なくされるなど活動の継続が難しくなっている。また、新規立ち上げについても取り組みを自粛する傾向にあり、活動へのコーディネートが難しくなっている。</p> <p>ほおつちよけん相談窓口の開設に合わせ、ほおつちよけんネットワーク会議の全市展開を進める必要がある。その際には、地域側の負担軽減も考慮し、既存の会議体を活用し同機能を位置づけるなど、地域の実情に合わせた取組を住民とともに検討する必要がある。</p> <p>また、会議の運営においては、地域課題の掘り起こしや困りごとの解決に直結する福祉的な活動だけでなく、楽しそう、面白そうといった興味・関心から地域でのつながりが生まれる場や取組にも着目した環境整備を進めていく必要がある。</p>
	多様な交流の機会づくり	多様な主体が つながる	<p>○地区社会福祉協議会連合会による情報交換会・研修会等の開催支援 地区社会福祉協議会連合会による研修会等の開催を企画したが、新型コロナウイルスの影響による開催中止 ○世話人会:2回</p> <p>○福祉委員会の開催 朝倉地区・江ノ口東地区において福祉委員会を開催。日頃の活動の共有や今後の活動の展開に向けて意見交換を実施。朝倉地区においては、小学校1年生の学校生活や学習を手助けする小1サポーターの活動を行うなど、活動の幅を広げている。</p>			C

		事業内容	取組状況(令和4年3月末時点)	進捗評価(令和4年3月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価 今後の課題等	
「ほおっちょけん」のまちづくり	地域で共に支え合うしくみづくり	地域の生活の困りごとの解決に向けたつながりづくり	<p>○『ほおっちょけん相談窓口』運営及び開設に向けた支援</p> <p>【既存の相談窓口及びモデル地区に対する支援】</p> <p>実施地区(R1:旭・江ノ口西・三里・一宮・春野 R3:五台山・高須・秦・初月・大津)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回既存の相談窓口(59ヶ所)への訪問(相談内容及び状況の確認を実施) 相談件数92件(令和3年4月～令和4年3月末) ・高知市社会福祉法人連絡協議会の取り組みとして「出張ほおっちょけん相談窓口」を開催し、窓口の広報、啓発を実施。(相談件数20件,チラシ等,広報物の配布300セット) <p>【相談窓口の新規開設に向けた支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに対象地区となる地域の各種団体や関係機関等への説明や協議,民生委員児童委員,町内会へのアンケート調査を実施した。 <p>○住民が主体的に地域の中で課題解決できる仕組み</p> <p>【既存のモデル地区に対する支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口に寄せられる困りごと等を課題解決に向けて検討できる仕組みとして,ほおっちょけんネットワーク会議を地域へ提案し,実施(一宮,江ノ口西,秦,初月) ・生活支援ボランティア養成講座を実施(旭,三里,一宮,秦) 養成人数27名(総数 66名)(再掲) <p>【新たなモデル地区に対する支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口に寄せられる課題や住民が日常的に見聞きする困りごと等について住民とともに学び・検討する場づくりに向けて“わが町ならではの”取組を支援。 		B	<p>ほおっちょけん相談窓口の全市展開に合わせ,相談窓口へのフォロー,相談対応,地域の中で解決できる仕組みづくり及び場の運営等については,継続して支援を実施していく必要がある。</p> <p>ほおっちょけんネットワーク会議の運営においては,地域包括支援センターとの協働を視野に検討を進めていく必要がある。また,地域における担い手の負担軽減を考慮し,地域の既存の会議を整理し,同機能を持つ会議の活用について住民とともに検討していく。</p> <p>地域の中で課題解決できる仕組みづくりに向けては,住民や地縁団体に加え企業や有償ボランティア団体等とのネットワークの構築を進める。</p>
			<p>○社会福祉法人連絡協議会の取り組み</p> <p>連絡協議会が実施する活動について,調査・検討・実践するために3つの部会(地域公益活動推進部会,相談窓口推進部会,災害対策連携部会)を設置し,出張ほおっちょけん相談窓口の開催や職員研修会の実施,複数法人が連携した福祉教育の取組に向けて検討を進めている。</p> <p>(新規) ・生活困窮者等の自立に向けた支援メニューの検討</p>			<p>令和3年度検討を重ねた,総合相談・現物給付等による経済的支援を行う新たな事業の令和4年10月からの実施を目指して準備を進める。</p> <p>また,現在実施している出張相談会の開催回数増加及びエリアの拡大も検討しており,令和4年度の実施に向けて具体案を検討する必要がある。</p> <p>さらに,社会福祉法人の責務として位置づけられている「地域における公益的な取組」の中には福祉教育が位置づけられており,高知市社会福祉法人連絡協議会と連携を図りながら取組を進める必要がある。</p>
		大規模災害に備える仕組みづくり	<p>○災害時に備え,平時からの行政との協議体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助金を活用した災害VC運営経費の予算確保に向けた協議(地コミ) ・市指定管理施設の避難所,福祉避難所運営協力に関する協議(健福,地防,防政)(10/27説明会実施) <p>○三者協定及び災害VC連絡会の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政を加えた四者災害VC検討会議の開催(3回)災害VCネットワーク構築及び災害ボランティアセンターマニュアル作成 <p>○災害VCネットワーク会議の実施</p> <p>(新規) ・大規模災害発生時にスムーズに協働できるよう情報交換を実施。(R3年度1回開催)</p> <p>ネットワーク構成団体22団体(市社協含)</p> <p>○研修や模擬訓練の実施</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため未実施</p> <p>○災害VC職員研修及び訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県社協主催研修(災害VC運営基礎研修9/27 8名出席)(災害VC中核スタッフ研修12/20 3名出席) <p>○奈良市社協,倉敷市社との災害時相互支援協定に基づく連携体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良市社協,倉敷市社協担当者会議の開催(5回 Web会議)合同研修企画及び情報共有 ・奈良市社協,倉敷市社協合同研修(11/25～11/26高知市会場にて実施 40名参加) 		B	<p>災害ボランティアセンターの円滑な運営に向けて,関係団体,行政との平時からの連携・協働体制を取り,災害時に迅速な対応ができるネットワークを構築していく必要がある。</p> <p>災害ボランティアセンター職員理解度指標に基づいた研修・訓練計画の作成・実施や,他市町村への支援メニューの整理,備蓄や資機材の整備に取組めなかったため,次年度以降段階的に実施していく。</p> <p>協定を締結してい倉敷市社協と奈良市社協の取組みを学び,復興支援のしくみづくりに取り組む必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況により計画が立てづらい状況ではあるが,地域住民と協働した模擬訓練の開催についても検討する必要がある。</p>

	事業内容	取組状況(令和4年3月末時点)	進捗評価(令和4年3月末時点)		
			2024年度(目標値)	評価 今後の課題等	
市社協の機能強化	市社協の周知度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ソーシャルメディアを活用した広報(関心を高めるきっかけづくりへ記載) ○「ほおっちょけん」キャラクター広報物(「ほおっちょけん」の住民意識づくりへ掲載) ○ほおっちょけん出前講座の実施 6件, 受講者253名(内訳 権利擁護関係5件)(令和2年度実績 3件受講者40名) ○(新規)「Challenge! 誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会の実現を目指して」を作成(12,000部) ○地域福祉コーディネーターの地域支援活動を通して, 市社協の周知を行う 	【高知市社会福祉協議会の知度】 ・「名前も活動の中身もよく知っている」「名前は知っており, 活動も少しは知っている」人の割合 市民 50% 町内会長・自治会長 70%	B	引き続き, ほおっちょけんキャラクターを活用して, 広報媒体の拡充を図る。 新たに作成した活動報告誌「Challenge! 誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会の実現を目指して」を通して, 市社協がどのように地域生活課題に対して取組を行っているのか発信を行っていく。 市民に対して更に情報発信をしていくため, ユーザー数がより多い新たな広報媒体(公式ライン)を導入し, 広報の強化を図る。
	地域福祉コーディネーターの役割・機能の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスの運用による計画的な人材育成 ①【OJTの実施】 (新規) 入職2年未満の職員を対象に「フォローアップ研修」を実施し職員が学び合う機会づくりを行った。 ②【OFF-JTの実施】 高知県市町村社協連絡会, 高知県社協主催のコミュニティソーシャルワーカー養成研修を受講した。 ③【自己啓発の実施】 キャリアパスと自己啓発カードを連動させ, 目指す地域福祉コーディネーター像を明確にするとともに, 個人の課題を自ら考え目標設定をすることができた。 令和2年度に試行的に実施した社会人基礎力自己チェックシートの正式運用を開始した。 		B	新たに, 入職2年目までの職員を対象に「フォローアップ研修」を実施し, OJTの仕組みの強化に取り組み, 経験年数の浅い職員のフォローアップに努めた。 地域福祉コーディネーター全体としては, 地域の専門職等との情報共有等密な連携のもと地域に応じた活動を展開するために各種研修を受講する。また, 自己における振り返りの機会を通しスキルアップに努めるとともに, 「地域支援事例検討会」を活用し地域福祉コーディネーターの質の向上を図る。
	複合的な地域福祉課題への解決力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○制度の挟間や潜在化している生活困窮者への支援, 個人の権利を擁護するための専門的な知識や技能の取得に向けて, zoomを利用した国, 県, 県社会福祉協議会主催等の研修会や連携会議に積極的に参加し, さらに職場内での共有も図っている。 ○地域支援事例検討会(7回)やフォローアップ研修会(入職2年未満対象)を行うことで, 職員同士が学びあい高めあえる機会になるとともに, スーパーバイズを受ける機会にもなり, スキルアップにつながった。 (新規) ○地域福祉活動推進部門職員と相談支援・権利擁護部門職員が東西南北の圏域ごとに, エリア連携会議を開催し, 職員の相互理解とコミュニケーションの円滑化, 個別支援と地域支援の一体的な展開による市社協内での部門間連携を強化している。 		B	引き続き, 他機関主催の各種講座・研修に積極的に参加し, 地域福祉の向上に取り組む市社協職員としてのスキルアップを図る。 市社協内の連携強化の取組として実施しているエリア連携会議については, 各圏域のリーダーが集まり, 圏域で解決することが難しい問題, どの分野にも属さない制度の狭間の課題, 課題解決のために不足する資源の創出に向けた検討などを行う必要がある。
地域福祉課題に取り組む組織的チャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉課題への取り組み ①高知市, 高知市民生委員児童委員協議会連合会, 高知市地区社会福祉協議会連合会, 市社協の4者合同主催の高知市社会福祉大会において, 社会情勢に沿ったテーマを掲げて啓発等を行う。 テーマ「地域を紡ぐ～つながる想い」新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み中止としたが, 新型コロナウイルス感染拡大の中, つながりを途切れさせない地域福祉活動の工夫や新たな取組事例を動画にて紹介し, 今後の地域福祉活動に役立てるため, 地域団体等に配布した。 ○ファンドレイジングの取り組み ① 職員育成 競合他社の現状や全国の潮流等を学ぶため, ファンドレイジングジャパンに参加(オンライン) ②組織内ファンドレイジング環境整備 令和3年11月, 全職員向けにファンドレイジング研修実施。 ③寄付アプローチ 「ほおっちょけん」焼印付どら焼き(菓舗浜幸協力)を含んだ「オフィスDEおやつ」を企業に対し249セット販売(再掲) ④自主財源の確保 (新規) 「ほおっちょけんマンスリーサポーター」制度をスタート。 ○共同募金の取り組み ①コロナ禍での募金活動となり, 非接触での活動を模索。新規でチラシの作成や振込に切り替える等の工夫を地区へ提示し, 取組みを支援する。また中央共同募金会から提示されたコロナ禍での募金活動のガイドラインについて希望した地区委員会で説明を行う。 ②高知市共同募金委員会助成金として17団体へ助成を行う。(R2年度に新規公募助成事業を開始) ③助成審査の見直し, 公募助成先のインタビュー実施 (新規) ④公募助成先に呼び掛けて街頭募金を実施(8団体14名参加) ⑤コロナ禍で研修会が開催できず, 研修内容(歴史や手続き)の動画を作成し, 関係者へ配信した ⑥「赤い羽根」×「ほおっちょけん」バッジ1,000個作成, 649個配布 		B	社会福祉大会では関係機関との継続した取り組みを進めるとともに, 現在社会におけるタイムリーな福祉課題に焦点をあてた啓発ができるような取組を推進していく。 ファンドレイジングの取り組みでは, 課題解決に向けて組織的に取り組むため, 外部研修への参加や職員研修を継続して開催し知識を習得する。 令和3年度末よりマンスリーサポーター制度をスタート。 自主財源の確保に取組むとともに, 当該制度の推進を行うことが地域生活課題の解決へつながることを意識した取組を進めていく。 共同募金としては, 地域共生社会の実現に向けて, 多様な主体と「つながる」ことにより協力し, 地域生活課題を解決する取り組みや活動の地域福祉の財源としての役割を果たすため, 助成金の効果検証を高知市共同募金審査委員会にて実施し, 取り組みを推進していく。	